

高等教育の将来像の前提となる観点（案）

1. 社会全体の構造の変化

- ・ 学術研究や教育の発展 → 学際的・学融合的な研究、文理融合的な教育
- ・ 第四次産業革命、Society 5.0 → 「AI×○○」分野を超えた専門知・技能の組み合わせ
- ・ 人生100年時代 → 多様な年齢層の学生
(マルチ・ステージ型のライフスタイルへの対応)
- ・ グローバル化 → 多様な国籍の教員、学生
- ・ 地方創生 → 地方の産業の生産性向上、高付加価値化



- 多様性を実現するための「教育研究分野」「学生」「教員」とこれを支える「ガバナンス」
- 18歳人口減を踏まえた規模や地域配置

2. 国際的な高等教育機関の状況

- ・ 国内の高等教育機会の提供
- ↓
- ・ 近隣諸国を含めた域内の高等教育機会の提供
- ↓
- ・ 高等教育がまだ充実していない地域における高等教育機会の提供
- ↓
- ・ オンラインでの高等教育機会の提供



- 高等教育システムは、国、地域を超えて展開される「オープン」な時代へ。
- 学位授与を行う高等教育は、国際通用性があるかどうか、が鍵。
(学位プログラムへの転換、国際的な観点からの質保証、学位等の国際通用性は基本)
- 「競争」から「共創」「協創」へ
高等教育は競い合いの時代から、資源(人材、課題を解決する力…)を共有化する時代へ。

すでに、人類が抱える課題は、国境を超えている時に、「高等教育とは何か」人類における普遍的価値を常に生み出し、提供し続ける「高等教育」を維持・発展させていくことができるか。

- 新しい高等教育の姿(教育内容、教育方法、キャンパス)の再構築
- 高等教育(学問、研究者、学生)と社会の新しい関係の再構築

【議論の観点(例)】

高等教育が国、地域を超えて展開される中で、

✓ 21世紀を生きるための「教養」をどう考えるか

✓ 初等中等教育からの接続と多様性をどう考えるか

✓ 人が集積するキャンパスの意義をどう考えるか

マルチ・ステージのライフスタイルが浸透し、高等教育を受ける機会が広がる中で、

✓ 大学等に対する社会からの関与・理解と支援の在り方をどう考えるか

✓ 経済社会の「論理」(産学連携、利益相反、公開性と秘匿性)をどう考えるか

✓ 学問の自由・大学の自治の現代的な意味をどう考えるか